



東洋大学

Newsletter No.15

January 2007

国際共生社会研究センター

Center for Sustainable Development Studies

オープン・リサーチ・センター

タテをヨコに — 国際地域学の発想

東洋大学国際共生社会研究センター（オープン・リサーチ・センター）課題1-1研究グループ リーダー
大学院国際地域学研究科 教授 藤井 敏信

当センターは大学院国際地域学研究科を母体としていますが、この基礎をなす「国際地域学」は国際的な広がりから身近な環境まで幅広く地域を捉え、生活、文化、経済、環境など様々な分野を横断的、実践的に追究する学問といえるでしょう。都市化、工業化、グローバル化の中で急速に変化する地域社会を対象として、活性化や創造的な発展に向けた模索が今日的で基本的な課題となっていますが、このためには地球大の環境からコミュニティまで、それぞれの局面で具体的な「地域づくり」が求められています。「国際地域学」は、国内外に展開する多様で複雑な地域問題に取り組み、現場から課題を発見し、その解決をはかる過程を通して「地域づくり」を実践する、いわば「現場学」でありたいと考えています。また、国連などが提唱するように、あるいは各地域

が自立や連携を模索する試みに見られるように、国際平和、地域分権やガバナンスの確立と連動した持続的な開発により、豊かな環境共生社会の実現に向かうとすれば、このことは「国際地域学」のミッションに近いものといえます。21世紀は人類にとって大きな変革の世紀となるでしょう。人口爆発、食糧危機、地球環境問題、格差と貧困、南北問題など、さまざまな課題を私たちの前に突きつけています。これら難問の解決に向かうとき、専門に傾斜するあまりとかくタテ割り化しようとする既存の学問領域を、現場を通してヨコにつなぐ「国際地域学」への期待がますます大きくなることは容易に予想されます。多義的でさまざまに捉えられる地域からの発想—そこには集まって住む人々と、その拠って立つ環境とが紡ぎだす無限の可能性が秘められています。

公開講座 地域の活性化と環境・観光政策の位置づけ ～美しく豊かな地域を創るために～

日時：2007年2月24日（土）

13:00 開場

13:30 開会

会場：東洋大学板倉校舎

板倉町泉野1丁目

（東武日光線板倉東洋大前駅下車
徒歩10分）

講演、提案と議論：13:30-17:30

交流会：17:30-

☆入場無料：申し込み等は不要ですので、当日
お気軽にご参加ください。

☆お問い合わせは、事務局までお願いいたします。

E-mail (orc@itakura.toyo.ac.jp)

電話とFax：0276-82-9140

■ 演題および講演者（敬称略） ■

○講演

『板倉町観光計画の意義と展望』

針ヶ谷照夫（板倉町長）

『飯田市の自然環境と観光計画』

井上弘司（飯田市観光課企画幹）

『板倉町の自然環境と共生の方向』

薄木三生（国際共生社会研究センター研究員）

『板倉町の観光事業について』

伊藤良昭（板倉町産業振興課係長）

○提案と協議

*講演者、演題は変更の可能性があります。